

○本県では、肥育牛経営体間での出荷成績（枝肉成績）のバラツキが大きい
ため、飼養管理技術の改善による成績の向上が課題。また、素牛価格の高騰により収益性が悪化しているため、肥育期間の短縮等によるコストの削減
や安定的な素牛確保による飼養規模の拡大が課題。

○このため、関係機関とともに「プロジェクトチーム（肉用牛肥育強化特別指
導チーム）」を設立して、課題解決に取り組みを開始した。

○4農場で規模拡大が開始された。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 肥育牛飼養頭数の増加

■飼養規模拡大意向の経営体に対する各種支援により、4農場で預託制度を活用した大幅な飼養規模拡大が開始。

- ①A農場：320頭の規模拡大を予定
H28. 7～規模拡大のための導入開始
- ②B農場：120頭の規模拡大を予定
H28. 8～規模拡大のための導入開始
- ③C農場：200頭の規模拡大を予定
H28.11～規模拡大のための導入開始
- ④D農場：320頭の規模拡大を予定
H29. 2～規模拡大のための導入開始

2 出荷成績（枝肉成績）の向上

■プロジェクトチームによる飼養管理改善指導により、共励会出荷牛の出荷成績が向上。（H27→H28）

- ①A率
○91.4% → 92.1%
- ②4・5率
○87.6% → 93.0%

3 肥育前期高蛋白・粗飼料多給技術の検討

■枝振りの向上を図るため、本県の試験研究成果を活用した肥育前期高蛋白・粗飼料多給による給与実証試験を2農場で開始。

1 プロジェクトチームの設立

■県（畜産技術室、振興局、家畜保健衛生所、畜産研究部、農業革新支援専門員）、全農、JA、市町、県畜産公社等で構成される「プロジェクトチーム（肉用牛肥育強化特別指導チーム）」を設立。

2 プロジェクトチームによる現地支援

■プロジェクトチームで現地巡回を実施し、飼養管理改善指導を実施するとともに、飼養規模拡大意向の経営体に対して、事業（畜産クラスター事業・預託牛貸付制度等）の活用を支援。

3 現地実証農場の飼養管理指導

■試験研究機関の協力のもと、稲WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多給による飼養管理について現地指導。

普及指導員だからできたこと

・専門技術を持ち、試験研究機関の技術情報を知る普及指導員だからこそ、新たな給与体系を提案し、地域での普及・定着に向けた取り組みを開始することができた。

・プロジェクトチームでの現地支援活動等、関係機関と連携して、肉用牛肥育経営の安定化に向けた取り組みを行うことができた。

大分県

生産技術の向上による肉用牛肥育経営の安定化

活動期間：平成28年度～（継続中）

1. 取組の背景

本県では、肥育牛経営体間での出荷成績（枝肉成績）のバラツキが大きい
ため、飼養管理技術の改善による成績の向上が課題となっている。また、近
年の素牛価格の高騰により1頭当たりの収益性が悪化しているため、肥育期
間の短縮等による飼養管理コストの削減を行うとともに、安定的に素牛を確
保して飼養規模を拡大していくことが課題となっている。

このため、関係機関とともに本県の肉用牛肥育経営体の経営安定を支援す
るためのプロジェクトチーム「肉用牛肥育強化特別指導チーム」を設立して、
課題解決に取り組むこととなった。

2. 活動内容（詳細）

（1）プロジェクトチームの設立

肥育技術の向上と増頭推進を図るため、県（畜産技術室、振興局、家畜保
健衛生所、畜産研究部、農業革新支援専門員）、全農、JA、市町、県畜産
公社等で構成する「プロジェクトチーム（肉用牛肥育強化特別指導チーム）」
を設立した。

（2）プロジェクトチームによる現地支援

濃密指導対象として選定した経営体に対して、プロジェクトチームによる
現地巡回を実施し、飼養管理改善指導を実施するとともに、飼養規模拡大意
向の経営体に対して、事業（畜産クラスター事業・預託牛貸付制度等）の活
用を支援し、増頭推進を図った。また、共励会への出荷を希望する経営体
に対して、超音波画像診断を実施するなど選畜を支援するとともに、飼養管理
改善指導を実施した。



（3）現地実証農場の飼養管理指導

稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多

給の給与体系を実証する肥育経営体に対して、試験研究機関とともに飼養管理についての現地指導を実施した。



3. 具体的な成果（詳細）

（1）肥育牛飼養頭数の増加

飼養規模拡大意向の経営体に対する各種支援により、4農場で預託制度を活用した大幅な飼養規模の拡大が開始された。

- ①A農場：320頭の規模拡大を予定
 - ・H28.7～規模拡大のための導入を開始。
- ②B農場：120頭の規模拡大を予定
 - ・H28.8～規模拡大のための導入を開始。
- ③C農場：200頭の規模の拡大を予定
 - ・H28.11～規模拡大のための導入を開始。
- ④D農場：320頭の規模の拡大を予定
 - ・H29.2～規模拡大のための導入を開始。

（2）出荷成績（枝肉成績）の向上

プロジェクトチームによる飼養管理改善指導と超音波画像診断を活用した選畜により、共励会出荷牛の出荷成績が向上した。（H27→H28）

- ①A率
 - 91.4% → 92.1%
- ②4・5率
 - 87.6% → 93.0%

（3）肥育前期高蛋白・粗飼料多給技術の検討

肥育牛の枝振りの向上を図るため、本県の試験研究成果である「稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料」を活用した肥育前期高蛋白・粗飼料多給による給与実証試験を2農場で開始した。

4. 農家等からの評価・コメント

肥育前期の高蛋白・粗飼料多給の給与体系を実証する肥育経営体からは、従来の飼料給与体系と比べ、肥育前期牛の前軀の張りや肋張りが良好との高評価を得た。

5. 普及指導員のコメント

(地域農業振興課 広域普及指導班 主幹 石本 歩)

専門技術を持ち、試験研究機関の技術情報を知る普及指導員だからこそ、試験研究成果を活用した新たな給与体系を現地に対して提案し、現地での給与実証試験を開始することができた。

6. 現状・今後の展開等

プロジェクトチームによる肉用牛肥育経営の安定化に向けた取り組みは開始したばかりである。今後も関係機関と連携して現地支援活動を実施していく必要があるが、特に平成28年度から大幅な飼養規模の拡大を開始した経営体に対しては、経営の確立に向けた重点的な支援を行っていく必要がある。

また、稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多給技術の現地実証については、実証の成果を明らかにし、地域での普及・定着に向けて取り組みを進めて行く必要がある。